

那須塩原市那須野が原博物館 地域とともに歩む市民参加の博物館 「学校支援ボランティアによる学習支援」

【学校支援ボランティアによる学習支援】

那須野が原博物館で、学校との連携事業を担当しているのは、学校支援ボランティア「石ぐら会」である。平成20年度には、博物館に年間161校、8,012人が来館しているが、それらの利用校・児童生徒への対応は、石ぐら会が中心となっている。小学校3年生の昔の道具調べに対応し、民俗資料の解説と道具を使った体験指導（石臼・炭火アイロンなど）を実施したり、4年生に対しては、那須野が原の開拓関連の学習において、展示解説、ビデオ学習、常設展示室での開拓の解説、水運び・モッコ担ぎなどの体験活動指導を実施している。

開拓という事業を言葉、映像、体験を通して多角的に捉えたり、ものを見るだけでなく、触れて使うことにより体で感じたりできるようなプログラムが工夫されている。

石ぐら会は、博物館の自主団体として子どもたちの学習支援を行っているが、地域の大人が子どもたちへ地元の歴史や地域への思いを伝えていくことにより、子どもたちを地域で育てるという視点で活動している。

石ぐら会は、西那須野町郷土資料館案内ボランティアとして昭和57年に設立され、現在は学校支援ボランティアとして四半世紀にわたって、活発な活動を展開している。学校を中心とした展示解説・現地案内・講話等を行うほかに、地域に開かれた活動として「那須野が原入門講座」を開催、出版活動として『那須野が原ガイドブック』、『那須野が原歴史探訪』、『石ぐら会20年の歩み』を発刊している。



石ぐら会の名前の由来

「石ぐら」とは、開墾で出た石を集め、積み上げた石塚。開拓の副産物であり、この地域の開拓の象徴となっている。時代を追うとともにどんどんなくなっていくという危機感から、「名前だけでも残しておこう。」という思いと「開拓」「疏水」等を子どもたちに教えていく会、学習する会ということにちなんで名付けられた。

【学校との連携事業の実際】

那須野が原博物館では、学校支援ボランティア「石ぐら会」の活動以外にも、学校との連携をすすめるための取組として、以下の取組を実施している。

①博学連携事業資料の作成

小・中学校教員6名と博物館職員による組織を整備した。平成19、20年度の2か年をかけて学校との連携に関する博物館・学校の現状、学校での博物館資料活用事例についてなどの検討会を行った。博物館からの資料提示と博物館資料や人材を利用した授業の実践を行った。

②博物館資料の貸出

小学3年から中学1年までを対象にした「資料貸出」セットと個別の資料が準備されている。国語や社会などの各教科単元の中で実物教材資料として活用できるよう学習内容に準拠した資料である。貸出期間は7日間だが、児童生徒数の多い場合などは最大14日間まで延長できる。

【成果と課題】

○ボランティア団体が介在することにより、市民参加型の学習支援を推進することができる。

○自主団体としての財源や人材の発掘など課題があるが、市民参加型の博物館をめざしていく。

○子どもたちの学習の中に博物館利用が意識されている。

《施設データ》

館 名 : 那須塩原市那須野が原博物館
所在地 : 〒329-2752
 県那須塩原市三島5丁目1番地
電 話 : TEL: 0287-36-0949
FAX : FAX: 0287-36-0979
設置年 : 平成16年
設置主体: 那須塩原市教育委員会



ホームページ: <http://web.city.nasushiobara.lg.jp/hakubutsukan/>

入館者数: 平成20年度 約3万6千人